

生成AIを使ったプロジェクトマネジメントとドキュメント実例集【会場】（4126290）

ー プロジェクトの「最初の30日」に何を決めるか。 計画づくりから要件定義までを演習で体験する1日講座（テンプレート43点つき）ー 本講座では、プロジェクトを「不確実な状態から必要な意思決定を重ね、実行可能な状態へ変えていく活動」と捉えます。計画づくりから要件定義までに何を、いつ、どの粒度で決めるべきかを、成果物の全体像と仮想プロジェクト演習を通じて学びます。

開催日時	2027年3月18日(木) 10:00-17:00会場	
JUAS研修分類	プロジェクトマネジメント(プロジェクトマネジメント)	
カテゴリー	IS戦略実行マネジメント・プロジェクトマネジメント 専門スキル	
講師	人見悠大 氏 （株式会社クリエイティブテックスタジオ 代表取締役 PMP ） シンプレクス株式会社にて金融機関向けシステム開発に従事し、社内最年少でプロジェクトマネージャーに就任。 担当した全プロジェクトで品質・コスト・納期の未達ゼロを達成した。独立後は、ユーザー企業のIT戦略部門にCIO補佐として参画する一方、受託開発を行う企業の代表として発注側・受注側の双方を実務で経験している。 東証プライム上場企業の教育研修・エンタープライズPMO支援、年商1,700億円規模のSIerにおけるPM育成プログラムの設計・運用などを担当。 東京理科大学のPMP講座講師、iU 情報経営イノベーション専門職大学の客員講師を務める。 YouTubeチャンネル「プロジェクトマネジメントの教室」でPM実務を発信。週刊エコノミスト2025年3月11日号掲載。	
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（1名様あたり 消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】	
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア2F）	
対象	・ 特定の開発方法論、業界知識、生成AIの利用経験は問いません。 ・ PCをご持参ください。演習で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、Copilotのいずれか。無料プランで足ります）を使います。社内規定などで利用できない方や、PCをお持ちでない方は、講師が用意した出力例を使って同じ演習に参加いただけます。 ・ 会社の機密情報や個人情報は演習に使用しません。 初級	
開催形式	講義、グループ演習	
定員	25名	
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）	
特記	・ 特定の開発方法論、業界知識、生成AIの利用経験は問いません。 ・ PCをご持参ください。演習で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、Copilotのいずれか。無料プランで足ります）を使います。 社内規定などで利用できない方や、PCをお持ちでない方は、講師が用意した出力例を使って同じ演習に参加いただけます。 ・ 会社の機密情報や個人情報は演習に使用しません。	
ITCA認定時間	6	

主な内容

■受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

PCをご持参ください。演習で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、Copilotのいずれか。無料プランで足ります）を使います。社内規定などで利用できない方や、PCをお持ちでない方は、講師が用意した出力例を使って同じ演習に参加いただけます。

生成AIを使ったプロジェクトマネジメントとドキュメント実例集

ー プロジェクトの「最初の30日」に何を決めるか。

【この講座で持ち帰れるもの】

- ・計画づくりから要件定義までの「成果物の全体像」。何を、いつ、どの粒度で決めるかがわかる
- ・要求を分類して対応方針を決め、要件定義を「終わった」と言える状態までまとめる型
- ・生成AIへの指示の型と、チームのAI利用を揃える「AIへの指示書」（AGENTS.md など）の雛形。翌日から自社のプロジェクトで使える

【こんな方に】

- ・PMを任されているが体系的に学んだことがなく、自分のやり方が合っているか不安な方
- ・これからPM・PMOを担う方。用語（PMBOK、要件定義）から押さえたい方
- ・委託先から出てくる計画書や要件定義書を評価する立場の方
- ・プロジェクトメンバーの生成AI利用を、どう統制すればよいか決めかねている方

【当日の特徴】

- ・講義と演習がおよそ半々。中堅食品卸の基幹システム刷新を題材に、グループで「最初の30日」を設計する
- ・PCと無料の生成AIを使って、要求一覧を実際に作り比べる（使えない方には出力例を配布）
- ・配布物：成果物テンプレート43点（記載例つき）、成果物の全体像、ワークシート、AIへの指示書の雛形、スライドPDF
- ・講師は発注側（ユーザー企業のIT戦略部門）と受注側の双方を実務で経験

本講座では、プロジェクトを「不確実な状態から必要な意思決定を重ね、実行可能な状態へ変えていく活動」と捉えます。計画づくりから要件定義までに何を、いつ、どの粒度で決めるべきかを、成果物の全体像と仮想プロジェクト演習を通じて学びます。成果物の選択や順序、会社固有の制約への対応は人が判断し、個々の成果物の作成・整理・レビューには生成AIを活用します。生成AIに判断を委ねる講座ではなく、プロジェクトマネジメントの型を身につけたうえで、AIを実務に組み込む方法と、プロジェクトメンバーのAI利用を揃える方法を扱います。

【主な内容】

第1章 プロジェクトはなぜ失敗するのか

- 1-1 プロジェクトの定義 — 独自性と有期性。だから本質的に難しい（PMBOKガイド）
- 1-2 プロジェクトマネージャーの仕事 — 計画・実行・モニタリング・修正
- 1-3 データで見る失敗の現在地 — JUAS「企業IT動向調査2026」の「計画時の考慮不足」
- 1-4 不確実性を下げるのは意思決定
- 1-5 失敗の型3つ — 決める順序の誤り／受入基準の欠如／議論の粒度のずれ（実例つき）
- 1-6 ミニワーク：自分の現場で起こっている問題はなにか

第2章 計画づくりから要件定義までに何を決めるか

- 2-1 システム開発の5つのステップ — 工程と1対1ではない
- 2-2 成果物の全体像 — 企画・発注前・要件定義・設計の各工程で、どの成果物を作成するか
- 2-3 要求定義のやり方
- 2-4 記載例 — 要求一覧、業務フロー、機能一覧、外部IF一覧
- 2-5 要件定義の完了定義とは
- 2-6 プロジェクトマネジメント計画系の成果物 — 計画書・WBS・課題／リスク管理表
- 2-7 ミニ演習：4件の要求を分類と対応方針に振り分ける

第3章 【演習】最初の30日を設計する

- 3-1 仮想プロジェクト
- 3-2 計画で決めること
- 3-3 グループ演習
- 3-4 発表と講評

第4章 人が決めて、生成AIで作る

- 4-1 生成AIはPMの新しい管理対象
- 4-2 人が決めること／AIに任せる作業
- 4-3 出力の質を決める4要素
- 4-4 すぐ使えるコツ
- 4-5 チームのAI利用を揃える

第5章 【演習】要求一覧を生成AIで作りに比べる

5-1 曖昧な指示で作る

5-2 4要素を与えた指示で作り直す

5-3 発表 ー 自分の現場用の指示文に書き換える

【受講にあたり】

- ・ 特定の開発方法論、業界知識、生成AIの利用経験は問いません。
- ・ PCをご持参ください。演習で生成AI（ChatGPT、Gemini、Claude、Copilotのいずれか。無料プランで足ります）を使います。
社内規定などで利用できない方や、PCをお持ちでない方は、講師が用意した出力例を使って同じ演習に参加いただけます。
- ・ 会社の機密情報や個人情報は演習に使用しません。